

## <実施例1> 初期集中日本語プログラム(春期・土曜日日本語講座)

報告者：笠井 淳子(東京都教育庁グローバル人事育成部)

実施体制：東京都教育委員会が東京都教職員研修センター等で実施
対象生徒：都立高校に入学する第1学年の生徒のうち、入門・初級レベルの日本語を十分身に付けていない生徒
実施形態：クラス規模
プログラムのタイプ：タイプA+B
実施した科目：希望する生徒による受講のため、該当せず
担当者：日本語指導員

### 1.1 プログラム編成の考え方

#### (1) 高校生活の円滑なスタートのための日本語学習

本講座は、生徒の希望による申し込みのため、様々な都立高校に在籍する生徒が受講している。そのため、学校の教育目標や外国人生徒等の在籍状況、卒業後の進路、日本語指導・支援の取組等、生徒の学習を取り巻く状況も多様である。

本講座が、学校生活で必要な日常会話の習得と高校生活の円滑なスタートに主眼を置いていること、35時間(5時間×7日間)という限られた時数による指導であることの2点を踏まえ、プログラムA「生活のための日本語」を中心としたプログラム構成とした。しかしながら、生徒によっては、平仮名や片仮名を書くことに課題がある生徒もいることから、プログラムB「日本語基礎」として、必要に応じて、文字指導等も行う。

#### 東京都の「春期・土曜日本語講座」について

東京都教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課では、2024年度(令和6年度)より、4月に都立高校へ入学する高校1年生を対象に、入門・初級レベルの日本語を学べる「春期・土曜日本語講座」を実施している。対象は、都立高校に入学する高校1年生のうち、日本語レベルが入門・初級の生徒(日本語能力試験(JLPT) N5・N4レベル)である。受講を希望する者を広く募って、実施している。

参加希望者は、保護者の許可を得てインターネット申込を行う。また、出席状況等を在籍する高等学校と情報共有しながら進めている。

2024年度(令和6年度)は、日本語で授業を行う「日本語」クラス、「中国語」、「英語」、「ネパール語」の母語別クラスの計4クラスで実施し、令和6年3月から6月まで、1日4時間、15日間(60時間)実施するプログラムであった。学習内容は、1.2の表1「エリンが挑戦! にほんごできます。」(国際交流基金)の25の文法項目を全て取り扱って編成した。しかしながら、5月以降は、各学校での日本語指導が本格化すること、また、参加生徒が部活動に加入するなど学校生活が充実してくることなどから、受講者が減少した。

そこで、2025年度(令和7年度)は、時間数を、1日5時間、7日間(35時間 ※1単位に相当)とすることにした。また、2024年度(令和6年度)同様、日本語の初学者中心の「日本語B(入門)」、「中国語」、「英語」、「ネパール語」の各クラスに加え、高いレベルの日本語にチャレンジしたいと考える生徒のニーズに対応するため、日本語で授業を実施する「日本語 A(基礎:日本語で簡単なやり取りができる生徒対象)」を新たに設け、計5クラスで実施している。

#### (2) 育みたい「ことばの力」とプログラムの組み合わせ

##### (1年次の日本語学習における本講座の位置)

対象の生徒は、滞日年数も短く、日本語の力も入門・初級レベルであるため、日本の高等学校の制度・仕組みや日本社会・日本文化について十分な情報を得られていない可能性がある。そこで、高校生として

日常生活に必要な日本語の語彙・表現を日本生活や文化と共に学び、高等学校に関する情報を得て、周囲と日本語でコミュニケーションをとりながら必要な情報を得て問題を未然に防いだり解決したりする力を育むことをねらいとする。また、これまで母国や母語で身に付けてきた知識・経験や、本講座等で学んだ文型等を活用しながら、高校生活について自らの考えを作文等にまとめる力も育みたい。

そこで、上記に示した、プログラムAを基軸としながら、プログラムBで日本語の知識・技能を高めるとともに、自国や自国の文化等について紹介する活動をプログラムD「日本語プロジェクト」として、可能な範囲で実施するように設計した。

次の図には、この春期・土曜日本語講座と、修了した後の在籍する学校等での日本語学習のイメージ（7月まで）をプログラムの組み合わせとして示した。この講座は、枠で囲んだ位置に当たる。

<日本語学習：日本語プログラムの組み合わせ>

	4月	5月	6月	7月
プログラム A「生活のための日本語」	→			
プログラム B「日本語基礎」	→	→		
プログラム C「技能別日本語」		→		
プログラム D「日本語プロジェクト」	→	→		

### (3) 外国人生徒等の教育・支援活動（都立高等学校の場合）

都立高校によって、外国人生徒等の教育・支援活動は多様であるが、4月中旬以降、学校設定科目や特別の教育課程、日本語補習等により、日本語指導・支援が行われている。

本講座では、講座終了後、5月上旬に、出席状況や取組内容、今後の日本語指導・支援において参考にしてほしい点等を生徒ごとに報告書にまとめ、各学校に送付し、本講座と各学校での日本語指導・支援の連携を目指している。

なお、各学校における取組の一例は、以下の資料に紹介している。

参考：東京都教育委員会「日本語指導推進ガイドライン（実践編）」令和7年3月

URL：[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/japanese/learning\\_japanese/guidance\\_japanese/guideline](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/japanese/learning_japanese/guidance_japanese/guideline)

### 1.2 実施した日本語プログラム 授業名「春期・土曜日本語講座」

2025年度（令和7年度）は、4月に、1日5時間、7日間（35時間 ※1単位に相当）実施するプログラムとし、生徒の高校生活や在籍校での日本語指導との連携を踏まえ、取り上げる文法項目も絞って実施することとした。（表1「エリンが挑戦！にほんごできます。」取り扱う文法項目一覧）

クラスは、高校進学に当たって日本語の能力を伸ばしたいと考える生徒のニーズに対応した「日本語A（基礎：日本語で簡単なやりとりができる生徒対象）」と、「日本語B（入門：日本語の初學者中心）」で「中国語」「英語」「ネパール語」のクラスがあり、計5クラスで実施する。クラスAは、日本語で授業を行い、クラスBは生徒の母語等を媒介して授業を行う。

テキストについては、インターネット上に公表されている教材（「エリンが挑戦！にほんごできます。」国際交流基金）を使用している。授業では、動画、場面イラスト、文法解説等を共通教材として使用している。また、「ことばをふやそう」や「エリンと挑戦！にほんごテスト」（アプリ）等を活用し、生徒自ら日本語学習に取り組めるよう指導する。

更に、高校生活について理解を深める資料として、東京都教育委員会作成の動画「東京の学校生活」(高等学校①学校の1年間、②持ち物、③一日の生活・時間割、④授業科目・単位、⑤部活動・生徒会活動)の母語別動画と、日本語指導教材「たのしいがっこう(デジタルブック)」や「日本語指導ハンドブック(デジタルブック)」を一部、授業に取り入れている。

表1 2025年度(令和7年度)「エリンが挑戦! にほんごできます。」取り扱う文法項目一覧

	各課	文法項目	【日本語A】	【日本語B】
1	はじめてのあいさつー教室ー	Nです(か)、～から来ました	○	○
2	おねがいするー学校ー	Vてください	○	○
3	ものをさすー家ー	こそあど	○	○
4	場所をきくーコンビニー	どこですか	○	○
5	時間を言うー塾ー	時間の言い方、～から～まで	○	○
6	ねだんをきくーバスー	いくら、値段の言い方		
7	しゅみを話すー友だちのへやー	～が好きです	○	○
8	注文するーファーストフードー	～を〇つ、ください		
9	今のことを話すー習い事ー	Vています	○	○
10	きょかをもらうーファッションー	～でもいいですか	○	
11	じゅんばんを言うー温泉ー	Vてから	○	○
12	友だちと話すー部活ー	ブレーンフォーム	○	
13	やり方をきくー駅ー	どう/Vたらいいですか	○	○
14	よそを言うー携帯電話ー	～かもしれません		
15	きぼうを言うー祭りー	Vたいです	○	○
16	説明するーけが・病気ー	～んです		
17	はんたいのことを言うー授業ー	けど(逆接)		
18	くらべて言うー100円ショップー	～のほうがA	○	
19	理由を話すーアルバイトー	～から(理由)	○	○
20	けいけんを話すー修学旅行ー	Vたことがあります		
21	きそくをきくー余暇ー	Vことはできますか		
22	こまったことを話すートラブルー	Vてしまう		
23	友だちをさそうー遊園地ー	Vう・よう		
24	へんかを言うー文化祭ー	Aくなります/Aになります		
25	気持ちをつたえるー別れー	Vないでください		

【出典】国際交流基金「エリンが挑戦! にほんごできます。」(URL: <https://www.erin.jpif.go.jp/>)

### ①目標

- ・学校生活において必要となる、基本的な日本語を理解し、先生や友達と日本語でコミュニケーションをとることができる。(知識及び技能)
- ・母語で身に付けてきた教科に関する知識や技能を生かしながら、日本語をやさしく言い換えたりリソースなどを利用して、高校の教科について考えたり、判断したりして学習に取り組むことができる。(思考力・表現力・判断力等)
- ・将来の進路を具体的に考え、その実現に向けて高校生活の目標を設定し、学校の行事や社会的活動に主体的に参加することができる。(学びに向かう力・人間性等)

### ②講座の指導計画 (5時間×7日間、合計 35 時間)

#### 【日本語A(基礎)クラス】

1 科目名・単位数 (時間数)	春期・土曜日本語講座 35 時間 ※1単位に相当
--------------------	-----------------------------

<p>2 対象生徒 ※人数は、クラスにより異なる。</p>	<p>滞日歴：数か月～1年程度。日本の中学校を経ずに入学してきた生徒又は中学校3年生の途中で編入した生徒。 日本語の力：日本語で簡単なやりとりができる。 平仮名や片仮名は学習済みであるが、促音や拗音等を含む語彙は正しく読んだり書いたりできないことがある。 母語の力：学年相当 教科等の力：日本語での理解が困難な状況</p>		
<p>3 履修学年</p>	<p>1 年次</p>		
<p>4 目標</p>	<p>知識及び技能</p>	<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>
	<p>学校生活に必要な表現や語彙を理解し、日常的な問題や困難を解決することができる。</p>	<p>トピックについて調べたことを基に考え、自分の意見や気持ちを学んだ日本語を使って話すことができる。</p>	<p>日本語で周囲とのコミュニケーションを積極的に行うとともに、高校生活の目標を見つけ、行事や活動に主体的に取り組むことができる。</p>
<p>5 プログラムのタイプ</p>	<p>(◎)A(生活のための日本語) (○)B(基礎日本語) ( )C(技能別日本語) (○)D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 関連付けて実施するプログラム:○ ※B・Dの活動は、7 指導内容一覧(シラバス)では、◆と表示</p>		
<p>6 主なリソース</p>	<p>国際交流基金「エリンが挑戦! にほんごできます。」 東京都教育委員会「東京の学校生活」 「たのしいがっこう(デジタルブック)」 「日本語指導ハンドブック(デジタルブック)」</p>		
<p>7 指導計画(シラバス)</p>			
<p>時</p>	<p>トピック・内容／主な活動／○語彙・表現など ◆:プログラムB・Dの活動</p>		
<p>第1・2時</p>	<p>オリエンテーション ・講座の概要説明 ・日本語学習歴、平仮名・片仮名の理解状況の確認等 ・自己紹介カードの記入</p>		
<p>第3・4時</p>	<p>1 「はじめてのあいさつ」(エリン第1課) ○「はじめましてエリンです。」「～からきました。」 ・日付・時間の言い方、教室や学習に関する言葉、メモやノートの取り方等</p>		
<p>第5時</p>	<p>◆自己紹介文を書く(作文)</p>		
<p>第6時</p>	<p>2 「おねがいする」(エリン第2課) ○「もう少しゆっくり話してください。」 ・動詞の学習(グループ分け等)</p>		
<p>第7・8時</p>	<p>3 「ものをさす」(エリン第3課)</p>		

	○「これ、どうですか。」 ・様々な「こそあど」
第9時	4「場所をきく」(エリン第4課) ○「えんぴつはどこですか。」
第10時	◆自分の行く高校について調べて発表する(クラスメイトの発表を聞き、質問する。)
第11時	5「時間を言う」(エリン第5課) ○「6時から8時までですか。」
第12・13時	6「しゅみを話す」(エリン第7課) ○「私はサッカーが好きです。」
第14時	7「今のことを話す」(エリン第9課) ○「あれは、何をしていますか。」
第15時	◆入りたい部活動等について話す
第16・17時	8「きよかをもらう」(エリン第10課) ○「着てもいいですか。」
第18・19時	9「じゅんばんを言う」(エリン第11課) ○「温泉に入ってからごはんですか。」
第20時	◆高校生活で困ること、その解決方法を皆で考える
第21・22時	10「友だちと話す」(エリン第12課) ○「見てもいい？」
第23・24時	11「やり方をきく」(エリン第13課) ○「(○○には)どうやって行ったらいいですか。」
第25時	◆相手によって異なる会話の練習
第26・27時	12「きぼうを言う」(エリン第15課) ○「あれがしたいです。」
第28・29時	13「くらべて言う」(エリン第18課) ○「そのほうがかわいい。」
第30時	◆病気や体調不良を伝える
第31・32時	11「理由を話す」(エリン第19課) ○「買いたいものがあるから、アルバイトをします。」
第33時	◆修了式に向けて(スピーチ「これからの高校生活でしたいこと」の準備)
第34・35時	修了式 ・講座の振り返り、アンケート ・修了式
8 評価方法	・授業内での取組の様子、作文、スピーチ等

【日本語B(入門)・英語・中国語・ネパール語クラス】

1 科目名・ 単位数 (時間数)	春期・土曜日本語講座 35時間 ※1単位に相当		
2 対象生徒 ※人数は、ク ラスにより異 なる。	滞日歴：数か月～1年程度。日本の中学校を経ずに入学してきた生徒又は中 学校3年生の途中で編入した生徒。 日本語の力：日常会話の日本語がほとんど理解できない。 文字の学習については、次のとおり ・平仮名や片仮名が未習である。 ・平仮名や片仮名は読むことができるが、書くことは難しい。 ・仮名文字をいくつか読むことができる。 母語の力：学年相当 教科等の力：日本語での理解が困難な状況		
3 履修学年	1年次		
4 目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	学校生活に必要な表現や 語彙を知り、周囲と関係を 築きながら日本語を使って 生活を送ることができる。	トピックや参加した活動に ついて、自分の意見や気 持ちを簡単な日本語で話 すことができる。	日本語でのコミュニケーシ ョンを積極的に行うととも に、目標をもって高校で学 ぶことができる。
5 プログラ ムのタイプ	(◎)A(生活のための日本語) (○)B(基礎日本語) ( )C(技能別日本語) (○)D(日本語プロジェクト) 主なプログラム:◎ 関連付けて実施するプログラム:○ ※B・Dの活動は、7 指導内容一覧(シラバス)では、◆と表示		
6 主な リソース	国際交流基金「エリンが挑戦! にほんごできます。」 東京都教育委員会「東京の学校生活」 「たのしいがっこう(デジタルブック)」 「日本語指導ハンドブック(デジタルブック)」		
7 指導計画(シラバス)			
時	トピック・内容/主な活動/○語彙・表現など		◆:プログラムB・Dの活動
第1・2時	オリエンテーション ・講座の概要説明 ・日本語学習歴、平仮名・片仮名の理解状況の確認等 ・自己紹介カードの記入		
第3・4時	1 「はじめてのあいさつ」(エリン第1課) ○「はじめましてエリンです。」「～からきました。」 ・日付の言い方、メモを取る練習		
第5時	◆自己紹介、他己紹介		
第6～9時	2 「おねがいする」(エリン第2課) ○「もう少しゆっくり話してください。」		

	・動詞の学習(グループ分け等)
第 10 時	◆友達に何かを依頼する、依頼に対応する
第 11・12 時	3 「ものをさす」(エリン第3課) ○「これ、どうしますか。」 ・「これ」と「この」の違い
第 13・14 時	4 「場所をきく」(エリン第4課) ○「えんぴつはどこですか。」 ・「あります」と「います」
第 15 時	◆〇〇へ案内する
第 16・17 時	5 「時間をいう」(エリン第5課) ○「6時から8時までですか。」 ・時間割(教科名等)、授業に関する言葉(欠席、単位等)
第 18・19 時	6 「しゅみを話す」(エリン第7課) ○「私はサッカーが好きです。」 ・趣味や習慣
第 20 時	◆趣味について話す、趣味について尋ねる
第 21・22 時	7 「今のことを話す」(エリン第9課) ○「あれは、何をしていますか。」 ・動作の進行・継続「ている」
第 23・24 時	8 「じゅんばんを言う」(エリン第 11 課) ○「N1 をしてから N2 をします」 ・順番を意識して話す
第 25 時	◆一日の流れ(朝起きてから寝るまで)
第 26・27 時	9 「やり方をきく」(エリン第 13 課) ○「(〇〇には)どうやって行ったらいいですか。」 ・様々な質問の仕方を理解する
第 28・29 時	10 「きぼうを言う」(エリン第 15 課) ○「あれがしたいです。」 ・「N がほしい」と「Vたい」
第 30 時	◆自分の希望を伝え、やり方を聞く
第 31・32 時	11 「理由を話す」(エリン第 19 課) ○「買いたいものがあるから、アルバイトをします。」 ・「～から」を使った簡単な説明
第 33 時	◆修了式に向けて(スピーチ「これからの高校生活でしたいこと」の準備)
第 34・35 時	修了式 ・講座の振り返り、アンケート ・修了式
8 評価方法	・授業内での取組の様子、スピーチ等

### 1.3 具体的な活動・取り組みの工夫

教材を通じて学んだ日本語の語彙・表現と、母語や既存スキルを活かし、「先輩からのメッセージ」「自己紹介」「自分の行く高校について調べて発表する」「母国について紹介する」活動では、以下のように工夫する。また、在籍校へ講座受講記録を送付するための仕組みを作って、取り組む。

#### (1) 授業で行う活動の工夫

##### ①オリエンテーション「先輩からのメッセージ」

令和6年度に受講した生徒からの応援メッセージや日本語学習のアドバイス等を日本語と母語等で撮影し、オリエンテーションで紹介する。新たなロールモデルとの出会いは、今後の目標を明確にする、貴重な機会になる。

##### ②クラスによって異なる「自己紹介」

日本語B(入門)・英語・中国語・ネパール語クラスでは、自己紹介に関する表現や語彙を授業で学び、口頭で練習した後、自己紹介や他己紹介に取り組む。入学後に会う新しい仲間と、自信をもって交流ができるように、日本語で自己紹介する機会を設ける。

日本語A(基礎)クラスでは、簡単なやりとりが日本語でできることから、自己紹介文を書くことに取り組ませる。また、書く学習の前に、日本語で書く際にどのようなリソースを活用してきたかを振り返り、相互に紹介し合う。様々なリソースから、自分に合ったものを選んで利用し、工夫して書くことができるようになることが期待できる。

##### ③「自分の行く高校について調べて発表する」

受講生は高校生であり、自分で調べたり、考えたりすることに自律的に取り組むことができる。そこでその力を生かし、「東京の学校生活」を視聴して学校全体のイメージや仕組みを理解した上で、自分が通う学校について調べたり、高校生活で困ると思われることやその解決方法について、皆で考えたりする活動をおこなう。スケジュール上、これらの活動は、それぞれ1時間で実施する。

動画「東京の学校生活」



## 5 部活動・生徒会活動



URL:

[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/japanese/tokyono\\_gakkoseikatsu](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/japanese/tokyono_gakkoseikatsu)

わたし こうこう  
**私の高校**

高校名	
学科・コース	
高校の URL	
高校の SNS	あり ( ) ・なし
学生数	人
最寄駅 or バス停名	駅 / バス停から歩いて 分
自宅からの交通手段	徒歩・自転車・電車・地下鉄・バス
自宅からの所要時間	時間 分
通学路や高校の近くに 何がありますか？	
どうしてこの高校を選 びましたか？	
どんな部活がありま すか？	
どんな学校行事があ りますか？	

#### ④「母国について紹介する」

短期集中講座では、発表等の準備に長い時間をかけることは難しい。しかしながら、短期集中講座であっても、生徒に「これができるようになった」という達成感をもたせることは重要である。

そこで、今後の高校生活で発表する機会があると予想される「母国について紹介する」をテーマにした活動を行う。母国紹介の内容を表現するとき利用できる文型を学習するたびに、紹介する内容を一つずつ文にして書き溜めておく。全ての課が終了するときには、それらを構成して母国紹介の内容を完成できるようにする。

ゲストが講座に参加する機会を利用して発表活動を行う。質問を投げかけたり、質問を受けて応じたりして、一方向の説明で終わらないようにし、双方向で行う発表スタイルを身に付ける機会とする。

<参考:2023 年度の実施状況>



(文法項目を学習する様子)

<テーマにつながる文法項目等>

- ・ 4 日目 (7 課) 「～が好きです」  
例) ○私はネパールのヨーグルトが好きです。
- ・ 5 日目 (11 課) 「～てから」  
例) 学校生活(時間割など)の紹介  
○ネパールでは朝会をしてから、1 時間目が始まります。
- ・ 6 日目 (15 課) 「～たいです」  
例) ネパールと比較しながら、日本でしたいことを発表  
○日本一の富士山に登りたいです。

#### (2)「春期・土曜日本語講座」受講記録の作成・送付の取り組み

講座終了後、出席状況や日本語学習の取組状況等について、生徒別にまとめ、生徒の在籍する高校に送付することで、高校における指導・支援との連携を目指した。校内の関係教職員間での共有や個人面談等での活用、「特別の教育課程」の実施に際して作成している「個別の指導計画」への追記など、日本語指導・支援への活用が期待される。

「先生や友達に簡単な依頼ができる。」が示す内容、すなわち、生徒がどのようなことが言えるのかを具体的に示すことで、生徒が理解できる表現を教員が理解するとともに、生徒が日本語を使う機会を積極的に持つことができる。

**令和7年度「春期・土曜日本語講座」受講記録**

令和7年5月  
東京都教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課日本語指導担当

学校名						
学年						
氏名						

**1 出席状況**

合計日数	/7日					
------	-----	--	--	--	--	--

(1) 詳細

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
4月1日	4月2日	4月3日	4月5日	4月12日	4月19日	4月26日

**2 生徒による自己評価**

※使用教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」の各課の内容に対する、生徒の自己評価

課	can-do	自己評価
第1課	自分の紹介をすることができる。	
具体的な表現	私は〇〇です。〇〇から来ました。〇〇高校の1年生です。どうぞよろしくお願いします。	
第2課	先生や友達に簡単な依頼ができる。	
具体的な表現	英語はわかりません。日本語で話してください。/この漢字の読み方が分からないので、教えてください。	
第3課	物事の仕方について尋ねることができる。	
具体的な表現	これ(それ、あれ)は何ですか。これは、しゅけです。/ここはどこですか。ここは、武道場です。	

なお、2023年度の講座の授業実践例(日本語Aクラス 16・17時間目「許可をもらおう」)が、東京都教育委員会の「日本語指導推進ガイドライン(実践編)」(令和7年3月公開)に掲載されている。

【参考】東京都教育委員会「日本語指導推進ガイドライン(実践編)」令和7年3月 URL:  
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/japanese/learning\\_japanese/guidance\\_japanese/guidline](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/japanese/learning_japanese/guidance_japanese/guidline)